

# 患者さまおよび保護者のみなさまへ

小児科では、「超低出生体重の患者さんにおける尿細管機能、血色素量、成長」を調べています。

医療の向上のためにあなた、あるいはあなたのお子様の診療録（カルテ）情報を使用させていただくことがあります。ご同意いただけない方は担当医までお申し出ください。

同意されないことをお申し出になられた場合でも、そのために治療を変更するなど、治療上の不利益を受けることは一切ありませんのでご安心ください。また、ご同意いただけない旨の申し出はいつでもできますので、担当医までお申し出ください。

## 超低出生体重の患者さんにおける尿細管機能とは・・・

超低出生体重の患者さんは腎臓の中の血液をこすふるい（糸球体）の数が少ないため、長い間には尿に蛋白が出たり、血圧が上がる場合があります。このようなはっきりした異常が出る前に腎臓が疲れていることがわかれば食事を調節したり、お薬を使ったりして対策を講じることができます。この早期診断の指標として尿の尿細管機能の指標（B2ミクログロブリン、NAG、カルシウム、リン、アルブミン）が役立つ可能性があります。血液のクレアチンは腎機能の指標ですが、これは早期には変化しません。また超低出生体重でお生まれになると血色素量が高くなる可能性があることがわかってきました。さらに成長速度が腎機能低下と関連する可能性があります。成長ホルモンを使っていると成長速度が早くなります。

そこで、当院小児科にかかっていらっしゃる超低出生体重の患者さんの尿B2ミクログロブリン、NAG、カルシウム、リン、アルブミン、血色素量、成長を調べさせていただいております。また血液検査をされている方ではもともと超低出生体重の患者さんには調べるものですのでこの調査のために特別な検査を行うものではありません。日常の診療での検査の結果を集めその診断価値を知るための研究です。

「ヘルシンキ宣言」や「疫学研究に関する倫理指針」に従って実施されます。

## 個人情報保護について・・・

患者さまの個人情報を守ることは「個人情報の保護に関する法律」に定められています。従って、患者さまの診療録（カルテ）情報を使用させていただく際も、お名前などの個人を識別できる情報が第三者にわからないよう、法律を順守しながら十分な注意を払うこととお約束いたします。患者さんのプライバシーに関することは一切秘密とされ、外部に漏れることはありませんので、ご安心ください。

調査実施責任者： 小児科腎臓班 粟津 緑

ご意見、ご質問などがある場合は担当医にお問い合わせください。

